

二〇二二年度 光塩女子学院中等科【第二回】

国語入試問題

二〇二二年二月二日(水)実施

《注意事項》

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- ② 解答用紙に、受験番号(漢数字・算用数字どちらでも可)と氏名を書きなさい。
- ③ 解答は、解答用紙に書きなさい。
- ④ 記述問題の字数については、すべて句読点をふくみます。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ここ数年、AIスピーカーが出来るようになりました。スマートフォンでの音声入出力はボタンを押して話しかけるスタイルが主流。これを、Push to talkと言います。しかし、AIスピーカーでは、ユーザと本体の距離が遠いことも多いのでそんなことはできません。そのため「アレクサ」や「オッケーグーグル」といったウエイクワード（起動するためのキーワード）を使って呼び掛けてから話すスタイルが（あ）カクリツされました。AIスピーカーは家の中に置かれ、家族とも会話をします。

①なぜAIが雑談を始めたかですが、やはりAIと人間の関係が変わったからです。

まず、AIとのやり取りが双方向になりました。そして、常にそばにいて、何か困ったことがあれば聞くことのできる存在に。さらに、ずっと聞き耳を置いてこちらを窺い、人間同士の会話にも入るようになりました。この特徴だけ見てみれば、まるで私たちの仲間のようです。

これは、AIが社会の一員になってきていることを意味します。

この後でも繰り返し述べていきますが、人間社会にとって雑談は重要です。人間関係の潤滑油とも言われます。雑談のハウツー本が近年多く発売されていることからわかる通り、雑談の仕方でも人間関係が全く変わってくることを経験的に知っている人も多いでしょう。

AIは社会の一員として、人間とうまくやっていくために雑談を始めたのです。

人間は雑談が大好きです。

学校の授業中に「おしゃべりするな」と叱られた経験がある人も多いと思います。知人と

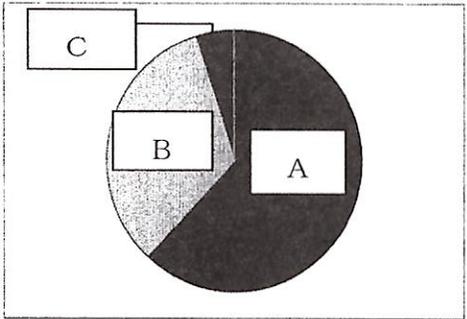
長電話をしたり、つい時間を忘れて話し込んでしまったりすることもあつたでしょう。（1）

人間が雑談をよくしていることはデータからも明らかです。

②図は国立国語研究所の小磯花絵先生を中心とする研究グループが日本人の会話を調査した

ときのデータです。誰かと話したときにその会話が雑談、用談・相談、会議・授業等のいずれであるかを調査したものです。それによると会話総数の60%程度は雑談だと報告されています。（2）

対話の内訳



出典：小磯花絵、石本祐一、菊池英明、坊農真弓、坂井田瑞衣、渡部涼子、田中弥生、佐藤晴「大規模日常会話コーパスの構築に向けた取り組み－会話収録法を中心に－」『言語・音声理解と対話処理研究会』2015, 74: 37-42.

この調査では性別、年代、職業などによってどのくらい雑談の割合が異なるかも調査されています。女性の方が男性よりも多く雑談をしているようです。また、若い世代の方がより雑談をしています。会社員・自営業よりもパート・学生・主婦の方がより多く雑談をしています。ただ、程度の差こそありますが、どの性別、年代、職業でも50%以上は雑談に費やしているようです。

つまり、我々の会話の半分以上は雑談なのです。かなり多いと思いませんか？（3）

これは、先ほど述べた通り、③雑談が人間関係に重要な役割を果たしているからです。

進化心理学の（い）チヨメイな研究者ロビン・ダンバーは、人間同士の雑談はサルや類人猿の毛繕いと同じだと言っています。毛繕いは触れ合うことでお互いが仲間であることを確認する行為です。雑談もこれと同じで、言葉を交わすことそのものが、お互いが仲間であることを確認する意味を持っています。

また、相手がどういう人かを知るには雑談はもってこいです。何が好きなのか、何が嫌いなのか、何を信じているのかといったこと、すなわち人となりを知ることができます。価値観が共有できる相手は信頼でき、その後も一緒に協力していけそうですね。協力関係を築くために雑談は重要です。

雑談では第三者についての話題が多く見られることも知られています。その場にいる話者についてだけでなく、第三者について話すことで、人間同士の関係性を弱めたり、強めたりすることができます。誰かの悪口を言つてその人の立場を悪くしたりするなど、うわさ話で人間関係は変わっていきます。人間関係は雑談によって調整されているのです。

「人間同士では確かに雑談は重要だということは理解できる。でも、AIはただの機械であって、人間とは違う」「どうしてAIが社会の一員的な立ち位置になつてきたからといって、それと人間は雑談をする必要があるのか」と考える方も多いでしょう。

人間とAIの間で雑談なんて必要ないと考える方も多いと思います。むしろそれが多数派かもしれません。コンピュータと会話をするなんてむなしすぎる、そんなのはデイストピア（理想郷であるユートピアの逆で暗黒郷のこと）だと考える方も多くいます。

私も雑談AIの研究をするにあたり、なぜこの研究が重要なかを説明する必要に直面しました。「こんな研究は必要ないんじゃないの？」「どうしてコンピュータと雑談なんてしなくてはいけないの？」などとよく言われました。

ここで人間の面白い特性を紹介したいと思います。それは、人間とやり取りを行うようなコンピュータシステムがあるとき、人間はそれがあたかも人間であるかのように扱ってしまうという特性です。「メディアの等式」と呼ばれます。これは数々の実験に

よって、(う)シツシヨウされています。

一つ事例を紹介しましょう。「たけまるくん」と呼ばれる対話システムの話。たけまるくんは奈良県生駒市のマスコットキャラクターなのですが、このキャラクターが生駒市の案内をする対話システムがありました。生駒市の(え)カンゴウスポットやお店などを案内することができます。

写真はたけまるくんが設置された様子です。画面上にたけまるくんが映し出され、マイクを使って音声で会話をします。開発者は生駒市についてであればいいは答えられるようにシステムを構築しました。しかし、実際にそのシステムを一般に公開したところ、④ユーザは生駒市のことをそれほど聞かなかったのです。

むしろ、画面上に表示されるたけまるくんに対して名前を聞いたり、「かわいいね」と言ったり、「一緒にあそぼうよ」と声をかけたり、雑談を多くしたのです。これには開発者も慌てて、雑談にもある程度こたえられるようにシステムを急いで修正。結果的に、システムが応答するために持つデータの半分程度が雑談に関するものになりました。人間がいかに対話システムと雑談をしてしまうかが分かります。

このような事例は他のところでも見られます。マイクロソフト社のパーソナルアシスタントであるコルタナ(Cortana)への入力の30%は雑談だと報告されています。私が研究開発に携わったNTTドコモ社の音声エージェントサービス「しゃべってコンシェル」でも多くのユーザがキャラクターに対し雑談を試みていました。このことから、NTTでも雑談AIのプロジェクトが本格的に開始されたくらいです。

人間は⑤その特性から相手がAIであっても雑談をしてしまうのです。

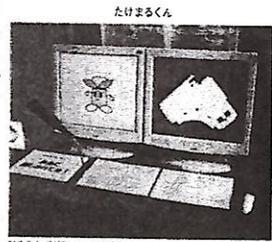
(ひがしなかりゆういちろう 東中竜一郎『AIの雑談力』による)

※注 AIスピーカー…人工知能を用いた対話型の音声操作に対応した機能。AIとは人工知能のこと。ユーザ…利用者。ユーザー。

潤滑油…物事の運びを円滑にするものたえ。ハウツー本…ある目的を達成するためにはどうしたらよいかということについて書いた本。

理想郷…想像上の理想的で完全な社会。パーソナルアシスタント…ユーザの情報管理を支援する機能。

音声エージェント…音声による入力にしたがって、コンピュータが自動的に判断して処理を行う機能。



問一 (1) (あ) (え) のカタカナを漢字に直しなさい。

(あ) カクリツ (い) チョメイ (う) ジッショウ (え) カンコウ

(2) I 「聞き耳を [] て」の空所に適語を入れなさい。

II 次の各文の傍線部は「よく聞こうとする」意味になります。○にひらがな一字を入れ、文を完成させなさい。

1 耳を○○○○と虫の音が聞こえてくる。 2 熱心な演奏に耳を○○○○。

問二 ——— ① 「なぜAIが雑談を始めたか」について、その理由を説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉をそれぞれ五字以内で本文中から抜き出しなさい。

・ AIと人間とのやり取りが [1] になり、AIが [2] として人間とうまくやっていく必要が生じたため。

問三 ——— ② 「図はデータです」とありますが、図のAとCの空欄には「雑談」、「用談・相談」、「会議・授業等」のいずれかが入ります。「雑談」が入るのはどれですか。AとCから選び、記号で答えなさい。

問四 本文中には次の一文が抜けています。どこに戻すのが適当ですか。(1) (3) から選び、番号で答えなさい。

・ むしろ雑談の合間に仕事の話をしているととてもよいからです。

問五 ——— ③ 「雑談が人間関係に重要な役割を果たしている」とありますが、この後筆者は「重要な役割」についてくわしく説明します。筆者が考える三つの役割を説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉を五字以内で本文中から抜き出しなさい。

・ 言葉を交わすこと自体が仲間意識を確認するものであるということ。

・ 相手の [1] を知り、 [2] を築くこと。

・ [3] について話題にすることで、人間関係を [4] すること。

問六 — ④ 「ユーザは生駒市のことをそれほど聞かなかつた」とありますが、筆者はこの事例を挙げて何を示そうとしていますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 開発者が構築した対話システムが無駄になってしまったということ。

イ 開発者の予想を上回る数の人々が対話システムと雑談をしたということ。

ウ 開発者がユーザの好みや傾向について把握していなかったということ。

エ 開発者が考えていたほどユーザは生駒市に興味がなかったということ。

問七 — ⑤ 「その特性」について説明した一文を抜き出し、最初と最後の五字を記しなさい。

問八 本文を読んだ四人が感想を述べています。本文の特徴や内容に合致しないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A…具体例が豊富で、図や写真をふくみながらわかりやすく説明されているね。

イ 生徒B…多くの人が感じるであろう疑問に触れながら、読者に語るように説明しているね。

ウ 生徒C…人間とAIとの関係が近くなり、人間とAIとが手を取り合っていくために雑談が必要なんだね。

エ 生徒D…人間がAIに使われるのではなく、AIを使いこなしていくためにも雑談が必要なんだと思うよ。

問九 — 「雑談AIの研究」を筆者は重要であるととらえています。本文と同じ書籍の別の箇所を引用した次の文章を読んで、雑談AIの研究が重要だと筆者が考える理由を書きなさい。

〔引用文〕

多くの課題はあるものの、私は雑談AIの未来は明るいと感じています。技術は着実に進化していますし、コンピュータとの雑談はこれから必須のものになっていくと思われるからです。

これからのコンピュータは、より一層身の周りに存在するようになるでしょう。スマートフォンはもはや体の一部といってよい

くらいもち歩いている人も多いと思いますが、これからさらに、高度なAIを搭載※らさいしたコンピュータが身の回りに増えてくるでしょう。知的なコンピュータと我々のやり取りは、人間同士のような音声言語を用いた対話によるコミュニケーションが基本となります。そうした時、コンピュータに何を任せるかを決定するのは日ごろからの信頼しんらいであり、ベースとなるのは雑談によるやり取りです。

お互いたがを理解し合うことで、より良い作業ができるのは人間でもコンピュータでも同じこと。今後は、「人間のあいつと組むよりこのコンピュータとチームを組もう」とか「ここは人間とコンピュータの混合チームで行こう」といったことが起こると思います。これはディストピアではなく、人間とコンピュータがお互いたがのよいところを引き出せるようになるという話です。

※注 必須ひつす…なくてはならないこと。 搭載とうざい…積み込むこと。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

・小学生だった「わたし」は、クラスメイトの「まさこ」とけんかし、けんかが続く中で、「わたし」は学校で孤立しつづであった。

まさこを（あ）訪ねたのは、夏のことであった。

そのときもまだ、けんかの最中だったはずだが、なぜ訪ねたのか記憶にない。そのころも、わたしはどんよりとした目で学校生活をおくっていた。

心の状態というものは、まるで水溜りの表面のように、実際の目の表面に現れるものだ。何か悩みごとがあるとき、目は膜で覆われ世界は不透明でよそよそしいものになる。逆に心が晴れ晴れとしているとき、神経は覚醒し、目の膜ははがれ落ち、目は「直接に」いきいきとものごとを映し出す。比喩でなく、目は本当にAの窓だと思う。

いまわたしには、まさこのように敵対する人間がいるわけではないが、わたしの目には常に膜がかぶさっているように感じる。いつからか、こういう感じが常態になった。無垢ではなくなったということだろうか。丸裸の何もつけない魂が、そのまま世界と対峙している感覚が、いつからか失われた。これは純粋に身体的な感覚なのだが、①自分と世界のあいだに、常に膜が一枚張られている感じがある。心が裸でなく、常に媒介物が一枚、防御装置として張られているということなのか。

「あらまあ、さあさ、なかへどうぞ」
黙って立っているまさこの後ろから、小柄なおかあさんが、にこにこしてでてきて、わたしにあげられ、あげれと言う。まさこは依然として無言だが、わたしがあがることを嫌がってもいないようだ。

まさこのおかあさんがおぼんに飲み物とお菓子をもってやってきた。あのころ、友達の家に行くと、たいてい、サイダーとか、コーヒー牛乳が出てきた。コーヒー牛乳といっても手作りで、牛乳に、ネスカフェのインスタントコーヒーと（い）サトウをとかして氷を浮かべたものだ。そして、あのとき出てきたのは確か、サイダーのほうだ。

まさこは大きいのおかあさんは小さい。まさこたちがって愛想もよく、東北の訛りがとても優しい。いかにもひとがよさそうな笑顔である。まさこはあんなに意地悪なのに。②子供心にも、まさことおかあさんは生きる世界がまるで違ふ、と思う。

まさこはけんかのことをおかあさんには話していないようだった。③子供というのは、自分のことを親などに話すものなのだろうか。

少なくともわたしは自分の憂慮を、親にまったく話さない子供だった。子供ほど、自分のなかにぴったりと閉じ込められている存在はない。と、わたしは思うが、なかには違う子供もいるかもしれない。しかし親に、きちんと「相談」できる子供がいたら、その子も子供でなく、大人なのではないかと思う。

狭い畳敷きの部屋で言葉も交わさずにいることに、まさこは耐えられなくなったのだろう。不意に立ち上がると、引き戸をさっと開けた。川が見えた。すぐそこが川だった。確かに(う)川浴いに立つ家なのだった。

さざなみだった水のおもてが見え、涼しい風が一気にさーっと来た。川を渡ってくる風は冷たくさわやかで、一気にBがさめるようだ。④川風、それは、海から来る風とも、春風のようなものとも違う。

わたしの髪が、ぱさりと揺れた。まさこの髪も、さらさらと乱れた。(1)自分のからだが透明になるのがわかった。「いい風がくるでしょう」

おかあさんがわたしたち二人にむけて言った。実際、その風は、大人になつたいまでも、思い出だけで、あらゆる憂慮を、ほんの少し軽くしてくれるような風なのだった。

まさこは、そうよ、どう？素敵でしょう？と言わんばかりに、少し誇らしげにわたしを見た。わたしは答えただろうか？「ええ」とか「ほんと」とか。いや、そのときも、わたしは何も言わなかった。まさこもまた、何も言わなかった。仲直りしようよ、とも言ったわけではないのに、わたしたちは並んでサイダーを飲み、わたしはそれだけで満足して家に帰ってきた。

まさこには卒業以来、会っていない。

⑤あのととき、仲直りをしたと感じたのは、それはわたしのだけの勘違いかもしれない。なぜ、けんかしたのか、もはや原因も思い出せないが、あのととき、阻害された、あるいは阻害した、うつすらとした悲しみは、わたしのなかにまだ残っている。

ひとつとうまくいかないことは、大人になつてからだつて多い。人間関係のなかで日々受ける傷、与える傷は、子供のころのそれと本質的に変わらない。子供のけんかだから、さらっとしていくというわけでもないし、大人同士だから、もう二度と(え)シユウフクできないというわけでもないだろう。

ただ、思い出すのは、あの風のことである。

ああ、あのととき、川風が吹いたな、ということ。あのとときまさこが引き戸を開け、そこから川風が、一気に入ってきた。心が刷新され、まさことわたしの関係のあいだに、ジャストタイミングで、颯爽と風がおこったということ。

生きていると、なんとはなしに、心が重いという日々がある。(2)まるでいつまでも出だしの一行目が出てこないときのような。まさにいま、わたしはそんな状態にある。よく寝ておいしいものを食べればきつと直る。わたしの憂慮なんて、その程度のものだ、きつと。そう思いながら、わたしが思い出したのは、あの風のことだった。全身を打つように、存在をめくるように、不意に吹いてきた、あの風のことだった。

ある友人が、こんなことを話してくれたことがある。

子供のころ、ものすごい豪雨を経験した。雨は一気にどさつと降り、さつと上がった。そのとき、窓の外のブラインドに、雨粒が残って光っていた。その一滴のことを今もくつきり、思い出せると。

川風、あるいは、光る雨粒。それらは感傷的な、詩的なエピソードにすぎないのだろうか？言葉のない、風景の一点に比重を移すことで、わたしは憂慮から逃走しようとしているにすぎないのだろうか。

先日久しぶりに永代橋を渡った。隅田川は幅の広い川だ。そこにかかる橋も、存外、長い。冷たい川風を横顔に受けながら、橋の途中で足を止めた。海風は、岸边にいる者に向かって、正面から挑むように吹いてくるけれど、川風にはもう少し穏やかさがある。それは横からくる。通過していく。颯爽と吹き、心の塵を払ってくれるような浄化力がある。

あのとき、まさことわたしのあいだに吹いた風。いま、地図で確かめれば、隅田川の支流、当時、二十間川と呼ばれていた⑥川からの贈り物だった。

(小池昌代『黒雲の下で卵をあたためる』所収「川から来る風」による)

※注 覚醒…眠りからさめてすつきりする。 常態…いつもの状態。 無垢…けがれがないこと。 まじりけがないこと。

対峙…向かい合って立つこと。 媒介物…間に入ってとりもつもの。 ネスカフエ…インスタントコーヒーの商品名。

憂慮…心配すること。 障害…じゃまをすること。 刷新…事態を改めて、まったく新しいものにする事。

ジャストタイミング…ちょうどよい間合い。 颯爽と…きりつとして気持ちのよいようす。

エピソード…ある人や物事についての短い話。 浄化力…けがれを取りのぞいて、きれいにする力。

問一 (1) (あ) (え) の漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

(あ) 訪ね (い) サトウ (う) 川沿い (え) シュウフク

(2) 本文の空欄A・Bにあてはまる最もふさわしい漢字一字を、それぞれ答えなさい。

問二 ① 「自分と世界のあいだに、常に膜が一枚張られている感じがある」とありますが、ほぼ同じ内容を表している部分を、

①より前の段落から三十字以内で探し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 ② 「子供心にも、まさことおかあさんは生きる世界がまるで違^{ちが}う、と思う」とありますが、そのように感じさせた二人の違^{ちが}

について述べた1〜3の文のマス目の字数に合う言葉を本文中から抜き出しなさい。

1 まさこは大きい、まさこの母は□□である。

2 まさこはそつけない、まさこの母は□□がよい。

3 まさこは□□□□なのに、まさこの母は優しい。

問四 ③ 「子供というのは、自分のことを親などに話すものなのだろうか」とありますが、「わたし」は、子供というのはどのよう

なものだと考えていますか。本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

問五 ④ 「川風、それは、海から来る風とも、春風のようなものとも違^{ちが}う」とありますが、次の1〜5の文を、「川風」について述

べたものをア、「海風」について述べたものをイと分類して、記号で答えなさい。

1 憂慮^{ゆうりょ}を軽くしてくれる。

2 岸边にいる者に挑^{いど}みかかってくる。

3 きりつとした中にも穏^{おだ}やかさがある。

4 心をきれいにしてくれる。

5 真正面から吹^ふきつけてくる。

問六 この文章には複数の比喩表現が効果的に使われています。――(1)「自分のからだとらめいが透明になるのがわかった」・(2)「まるでいつまでも出だしの一行目が出てこないときのような」は、それぞれどのような様子を表現したものですか。最もふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 物事にとりかかる心のきつかけがつかめない様子。
- イ 心がからっぽになつたようで何も考えられない様子。
- ウ 自分の心の中にあつたつかえがとれたと感じる様子。
- エ 自分の思いが相手に伝わつたと感じ、安心する様子。
- オ 自分の心の整理ができなくて、混乱している様子。

問七 ――⑤「あるとき、仲直りをしたと感じた」とありますが、「あるとき」とはどのようなときを指していますか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問八 ――⑥「川からの贈り物おく」とありますが、「贈り物おく」という表現には、「わたし」の川に対するどのような気持ちが書かれていると考えられますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア まさことのわだかまりをとり払はらつてくれた川に感謝する気持ち。
- イ まさことの関係を見直すきつかけを作つてくれた川をうやまう気持ち。
- ウ まさことの仲直りを実現させてくれた川をほめたたえる気持ち。
- エ まさこのそつけない態度を変えてくれた川を信頼しんらいする気持ち。

問九 ――「川風、あるいはくすぎないのだろうか」とありますが、筆者にとつての「川風」、友人にとつての「雨粒あめつぶ」のように、記憶に残っている自然現象や自然の風景をあげ、それがどのように心に残っているかを、百字以内で書きなさい。